

奈良市国際交流 出前講座

令和4年度



奈良市国際交流出前講座とは…

奈良県内の大学や専門学校に在籍している留学生が、
奈良市内の小中学校を訪問し、自国の生活・食文化などを紹介します。

子どもたちが異文化に触れ、興味を持つことで、
国際交流が促進することを目的としています。



ご挨拶

やわらかな春光に心躍る季節がやってまいりましたが、皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

新型コロナウイルスの感染が始まって3年目になりました。少しずつではありますが、様々な行動制限が緩和されてきており、かつての日常を取り戻す兆しが見えつつあるように思います。奈良市内の観光地でも、外国人を含め大勢の観光客の姿が見られるようになりました。

さて、当協会では令和3年度に立ち上げた奈良市国際交流出前講座について、前年度に引き続き今年度も無事実施することができました。本講座は、奈良市内の大学及び専門学校の皆様のご協力のもと、奈良で学ぶ留学生に、奈良市内の小中学校を訪問いただき、子どもたちに自国の生活や文化などを紹介いただくもので、令和4年度は11校で実施いたしました。

私も11月25日に行われた大安寺小学校での講座の様子を拝見いたしました。バングラデシュの留学生のリファドゥルさんとイモンさんの説明は丁寧で分かりやすく、講座を受けている子どもたちも大変興味を持って話を聞いてくれているようでした。バングラデシュの食べ物や学校生活、人気のスポーツ等、子どもたちが興味を持ちやすい内容から、独立の歴史や国旗の意味等、その国の重要な事柄まで、内容は多岐にわたりましたが、クイズをはさんだり、子どもたちからの質問について会話を広げる等、子どもたちが交流体験を楽しめるような様々な工夫をしてくれました。

本講座が、将来、奈良市の国際化の担い手となる子どもたちにとって、世界へ興味を抱ききっかけとなり、国際理解を深める一助となれば大変嬉しく存じます。また、留学生にとっても、日本の小中学校で授業を行い、子どもたちと交流し、相互理解を深めるという特別な経験になれば幸いです。

コロナ禍という過酷な時を経て、人々の生活様式や意識も変わりましたが、当協会といたしましても、引き続き本講座をはじめ国際交流を推進する事業を行うとともに、海外の人々とお互いの文化を尊重しながら学び合う機会を提供していく所存でございます。

最後になりますが、ご関係の方々には、これからも国際交流のため、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、今後皆様のますますのご健勝とご多幸を祈念してあいさつとさせていただきます。



奈良市国際交流会
会長 河野 良文

ご挨拶

ロータリークラブという団体は社会に奉仕することが主な目的で日本国内はもとより世界の多くの国にあり、この奈良市国際交流出前講座は将来を担う青少年を対象に行っている奈良ロータリークラブの青少年奉仕活動のひとつとして、奈良市観光戦略課・奈良市国際交流協会と連携しながら昨年度に引き続き開催したもので、本年度は奈良市内11の小中学校において、大学や専門学校の留学生を講師として派遣し、児童・生徒たちに世界各国の言葉や生活文化、留学生から見た日本の姿等について紹介してもらいました。

その中で、私と奈良ロータリークラブ関係者は若草中学校1年・2年生計179人を対象として、マレーシアから奈良大学に留学しているハンヤン君の講演に参加しました。多くの中学生の前で一生懸命に話すハンヤン君がとても健気で、質疑応答ではいかにも中学生らしい質問に戸惑っている場面もありましたが、臆することなく返答する姿を見て、この事業は受講する児童・生徒だけではなく、講師を務める留学生にとっても学びの場になっていることを実感しました。

これまでの約3年、新型コロナの影響で外国人観光客も激減していましたが、ここにきてようやくもとに戻りつつありますし、今後はコロナ前以上に外国人観光客も増えてくることが想像される中で、奈良市内の児童・生徒が外国人の方と触れ合う機会が益々増えてくるかと思えます。まさにグローバルな時代になるわけですが、この出前講座をきっかけにして、受講生が将来グローバルに活躍できる人材として、そしてまた例えばハンヤン君からマレーシアの生活文化などを学ぶことによって、マレーシアと日本の友好の懸け橋となる人材として活躍できるような機会になることを願っています。

国際ロータリークラブには青少年交換学生というプログラムがあり、奈良ロータリークラブでも実施しています。これは奈良ロータリークラブと海外のロータリークラブ間で青少年を約一年間派遣・受け入れをするもので、派遣先の異国の文化などを学び、世界観を広げ、帰国後は将来地域社会の指導者としての役割を果たす人材を育成することを目的として、これまでも世界理解と平和の推進に貢献してまいりました。この奈良市国際交流出前講座をきっかけとして、奈良ロータリークラブの青少年交換プログラムにも参加していただけると、より一層世界観が広がることかと思えます。

最後に、奈良市国際交流出前講座を開催するにあたり、奈良市国際交流協会河野会長様、学校関係者の皆様、そして奈良市観光戦略課の皆様には大変なご尽力、ご協力をいただきましたことを厚くお礼申し上げます。



奈良ロータリークラブ
会長 乾 昌弘

派遣先

奈良市立都跡小学校

(2年生 / 86名)

■実施日：8月26日 ■紹介国：中国 ■協力校：奈良大学

奈良大学史学科2回生の趙雨鵬さんが、中国の学校生活・料理・年中行事について紹介してくれました。講座の終了後には子どもたちがお礼の歌を歌ってくれました。

都跡小学校教諭のコメント

8月26日(金)に、本校2年生が奈良大学留学生趙雨鵬さんから中国のお話を聞きました。子どもたちは、事前に中国についての調べ学習(本・インターネット・家族から話を聞くetc.)をした後、各学級で情報や意見を交換してから、今回の講演を聞きました。

当日は体育館でパワーポイントの資料を見ながら、趙さんから日本と中国の違いを説明していただきました。子どもたちに馴染のある食べ物(ラーメン・餃子など)が、中国ではいろいろな見た目をしており、写真を見た時には子どもたちの間で大きな歓声があがっていました。その後、日本のラーメンや昆虫は中国にもあるかなども質問していました。最後にお礼の気持ちを込めて、2年生全員で趙さんにいろいろな国の挨拶が出てくる『メッセージ』という歌を歌いました。

今回の趙さんの話から、子どもたちは中国の言葉や文化に直に触れる機会に恵まれました。校区にある平城宮跡は昔の中国の都市と所縁が深いことを知り、子どもたちの中には「これからも中国と仲良くしていきたい」という思いが芽生えました。コロナ禍において行事や活動が制約を受ける中、多様性について学ぶ貴重な時間を持つことができました。ありがとうございました。謝謝!

留学生のコメント



中国
趙雨鵬さん

多くの人の前での発表は人生初のことであり、この貴重な経験は、今後の私にとって大きな力になると実感しています。私は中学生時代から、将来は教師になりたいと考えていたので、今回の講座は私の夢を叶えてくれたといえます。講座の最後には私へのプレゼントとして、子供たちが歌を歌ってくれました。とても嬉しかったです。

私は日本と中国とのかけ橋になりたいという気持ちで、日本に留学しました。今回、日本の子供たちに母国中国を紹介し、彼らの心の中に親しみやすい中国の

イメージを残すことができたと思っています。このような貴重な機会を与えてくださった奈良市国際交流協会事務局の皆さん、都跡小学校の2年生の皆さん、先生方、本当にありがとうございました。



講演する趙雨鵬さん

派遣先

奈良市立済美南小学校

(3年生 / 27名)

■実施日：8月30日 ■紹介国：ベトナム ■協力校：奈良総合ビジネス専門学校

ベトナムのグエン・ゴック・トゥさんが、自国の生活、文化、食べ物、名所について解説してくれました。子どもたちは、トゥさんに続いて、元気よく「シンチャオ！（こんにちは）」「カムオン！（ありがとう）」とベトナムの言葉を発音していました。

済美南小学校教諭のコメント

「めっちゃおもしろかった！」「ベトナムのごはん、おいしそうやったな〜。」

出前授業を受けた後、子どもたちは楽しそうに、口々に感想を話していました。ベトナムという国を知らない3年生の子どもたちには、お話いただいたどの情報も非常に新鮮なものばかりで、最初から最後まで興味津々で聞いていました。ベトナムはどこにあるのか、どんな言葉やお金を使うのか、食べ物は、伝統衣装は…もっともっと知りたい！と、キラキラした目で質問する学級の子どもたち。その様子を見ていた担任までワクワクしながら、楽しく聞かせていただきました。

子どもたちは普段、外国の文化に触れる機会が乏しいのが現状です。外国語の学習では、英語圏だけでなく様々な国の言語に触れることがありますが、特定の国について掘り下げて、あるいは焦点をあてて学習する時間がなかなかつくれません。そんな中で、今回の国際交流出前授業は本当に良い機会でした。今回の出前授業を機に、外国の文化に興味をもってくれる子が増えることを願っています。

留学生のコメント



ベトナム
グエン・ゴック・トゥさん

今回、初めて小学校で講座に参加するので、準備の時からずっと心配で、どうしたらいいかなって考えていました。パワーポイントは下手ですし、日本語も苦手ですし、さらにパソコンを持っていなかったのです。また、子どもたちは3年生だから難しい漢字が分かるかどうかちょっと心配になりました。

しかし、講座を始めてそんな心配事がなくなっていることに気付きました。なぜかと言うと、子どもたちが可愛くて、明るくて、活気に

満ちていたからです。そして、皆ちゃんと聞いて、面白い質問もしてくれました。やっぱり子どもなので、とてもかわいい質問でした。例えば「ベトナムってテレビがありますか？」とか、「ゲームがありますか？」とか。僕の子どもの頃を思い出して、とても懐かしく感じました。

子どもたちの質問を理解できるようになってから、もう一度行きたいと思います。



クイズに答える子どもたち

派遣先

奈良市立明治小学校

(5年生 / 65名)

■実施日：9月5日 ■紹介国：ミャンマー ■協力校：奈良総合ビジネス専門学校

イー・イー・テッ・ムーさん、テッ・ウー・ニャン・ラインさんがミャンマーの生活文化について紹介してくれました。お二人はミャンマーの紙幣や伝統衣装を見せながら、ミャンマーの文化をわかりやすく説明してくれました。

明治小学校教諭のコメント

コロナ禍で、様々な活動が制限されている中、普段の授業では体験できない活動をと考えました。子どもたちは、外国語科の学習で異文化に触れる機会はあるものの、やはり、本物にかなうものはないな、と感じました。自国の衣装で来ていただき、そして、日本では見られない美しい装飾の仏塔や、日本とは似ているようで異なる食文化等を紹介していただきました。また、今まで見たこともなかった文字が登場したときは、「なんて読むの」と興味津々に画面をのぞき込む子どもも多くいました。ミャンマー語での挨拶の仕方も教えてもらい、教室に戻ってからも、教えてもらった言葉で挨拶を交わす姿も見られました。子どもたちにとっては世界への扉を開くよい時間になったようです

留学生のコメント



ミャンマー
イー・イー・テッ・ムーさん

自分の国のことを伝えるという、とても良い経験でした。小学校で話すときもみんな楽しそうに聞いてくれてとてもうれしかったです。みんなと一緒にミャンマー語を話すときも、みんなの発音が上手でびっくりしました。

校長先生からお茶をもらいました。それは日本に来て初めてお茶を飲むことでした。とてもおいしかったです。ミャンマーのお茶を思い出しました。今もあのときの子どもたちの笑顔を思い出しています。子どもたちとまた会いたいです。



ミャンマー
テッ・ウー・ニャン・ラインさん

みんなは正座をして静かにミャンマーのことを聞いてくれました。発表が終わると質問をたくさんもらいました。恥ずかしがらないで、自分が知りたいことをはきはきと話してくれるのを見て、賢いと思いました。

帰るとき、みんなが「ありがとう」と「さようなら」をミャンマー語でしてくれるのを聞いたとき、みんながよく覚えているから、私はびっくりしました。すばらしいです。笑顔で何回もあいさつして帰りました。貴重な経験もたくさんさせてもらいましたので、今回参加できたのは私にとってすばらしいものになりました。



講演するラインさんとイーさん

■実施日：9月30日 ■紹介国：バングラデシュ ■協力校：奈良総合ビジネス専門学校

イスラム・エムディ・リファドゥルさんとアハメド・イモンさんが、バングラデシュの学校生活・料理・年中行事について紹介してくれました。

伏見小学校教諭のコメント

写真や動画、クイズもあり、留学生のお二人のわかりやすいお話に、子どもたちは夢中でのめりこんでいきました。バングラデシュの小学生の一日の流れと、自分たちの生活を重ね合わせ、想像を膨らませていました。自分たちにとって身近な小学生の生活や、スポーツ、食べ物やお金の話に加え、なかなか理解が難しい宗教やお祭りのきまりなどについても、とても興味深く聞いていました。一番リアクションが大きかったのは、結婚式の話です。三日間行われ、1000人から5000人がお祝いし、かかる費用は日本円で1500万ほど！「結婚式できひんやん…」と嘆きの声も聞こえてきました。

バングラデシュのこと、留学生の方たちの日本への思いについて、たくさん質問があふれ、時間が足りないほどでした。「バングラデシュの自慢できる場所はどこですか？」という質問では、世界一大きなビーチを紹介してもらいました。その後、自ら世界地図で調べ、その大きさにおどろいてみんなに教えてくれた児童もいました。

最後には、はじめに教えてもらったバングラ語で「ドンノバド！（ありがとう!）」と声をかける児童が多かったです。「知りたい」「分かり合いたい」「伝えたい」という思いを持たせてもらったすばらしい授業でした。ありがとうございました。

留学生のコメント



バングラデシュ
イスラム・エムディ・リファドゥルさん

小学生ととても愉快的な日を過ごしました。皆さんはとても元気で、教室やグラウンド、図書室、作った絵や作文も見せてくれました。彼らの素晴らしい才能に感銘を受けました。今回、小学生が学んでいることに興味を持つようになりました。素晴らしい機会を与えてくれてありがとうございます。



動画を見ながら一緒に体操する子どもたち



バングラデシュ
アハメド・イモンさん

日本に来てから、初めて小学生と出会いました。すぐ自分の小学生時代のことを思い出しました。バングラデシュ文化を紹介した時、少し緊張しましたが、子どもたちの元気な声をきき、明るい笑顔を見て、緊張がなくなりました。今回、皆さんと出会って、一生忘れないほどすごく良い思い出になりました。



地図を示しながら説明するイモンさん

派遣先

奈良市立六条小学校

(3年生 / 99名)

■実施日：10月18日 ■紹介国： Bangladesh ■協力校：奈良総合ビジネス専門学校

イスラム・エムディ・リファドゥルさんとアハメド・イモンさんが、Bangladeshについて紹介してくれました。

Bangladeshは二度の独立を経て誕生したという、国の成り立ちについての話から始まり、Bangladeshが西Pakistanとの戦争に勝って独立したことを教えてくれました。国旗の緑と赤は、Bangladeshの豊かな緑と独立戦争で犠牲となった人々の流した血という意味があるそうです。

六条小学校教諭のコメント

総合的な学習として「世界となかよし」というテーマ学習（外国語の学習から世界には様々な国があることを知り、国際理解へとつなげていく）を進めていて、調べるだけの学習ではなく、実際に外国の方に来てもらい、お話を聞かせてもらえる方がより興味・関心を持ち、より深い学びにつながると思い、申込みさせていただきました。

子ども達の反応は、体育館に行く前には、初めて聞いた国からどんな人が来て、どんなお話をしてくださるのか興味津々の児童が多くいました。外国語の学習をしていた子どもたちからは日本と外国の文化の違いに関心を持ち、Bangladeshの人たちと会えることを楽しみにしているようでした。出前講座をしていただいた後も、Bangladeshの言葉でお礼をいったり、おうちの人たちにあいさつをしたりして、Bangladeshの文化に触れることができたと感じています。総合的な学習の中で、様々な国を調べる興味へのきっかけとなれば良いと考えています。

留学生のコメント



Bangladesh
Islam Emdey Rifaatさん

六条小学校で小学生と交流のきっかけで、小学生の教室などいろいろなところを見学した。とても綺麗な校舎でした。小学生はとても元気でした。今回のチャンスで小学校の先生がすごく専門的な知識を使って、生徒たちに上手く指導していることが分かって、素晴らしい教育が行われていると感じた。

小学生が明るい性格なので、本当に楽しかった、とても貴重な経験になった。



質問に答えるリファドゥルさんとイモンさん



Bangladesh
Ahmed Immonさん

六条小学校の小学生にBangladesh文化を紹介した。小学生たちと出会って本当にとても嬉しかった。小学生はとても元気でした。私にいろいろな質問を聞いてくれた。楽しくお話を聞いてくださった皆様、ありがとうございます。



体育館での講座の様子

派遣先

奈良市立春日中学校

(1年生 / 153名)

■実施日：11月9日 ■紹介国： Bangladesh、ベトナム

■協力校：奈良総合ビジネス専門学校

イスラム・エムディ・リファドゥルさんが、日常の挨拶から建国の歴史の深い話まで、途中にクイズを交えつつ楽しく、Bangladeshについて幅広く紹介してくれました。そして、グエン・ゴック・トゥさんは、ベトナムの各地域の美しい街並みの映像などを使ってベトナムの魅力をたっぷり紹介してくれました。

春日中学校教諭のコメント

グローバル化と言われながらも、実際にはその接点が乏しいことから、外国文化に対する理解を深めるとともに、日本の良さや、新しい気づきを持つことができたらと考え、応募しました。前回(令和3年度)はコロナウイルス感染症の影響で、オンライン授業でしたが、今回は直接授業を受けることができ、とても有意義な国際交流の機会をいただきました。留学生の方は、生徒たちが興味を持つように、授業に様々な工夫をしてくださったり、生徒からの質問にも丁寧に答えてくださいました。本当にありがとうございました。

生徒の感想を紹介します。

・ベトナムの食べ物バインミーの話が印象に残りました。美味しそうだったし、何よりベトナムで買うと日本円で50円ということに驚きました。

留学生のコメント



Bangladesh
Islam Emadi Rifadulさん

春日中学校の学生と文化交流のとき、Bangladeshの料理や伝統的な衣装、芸能などを紹介した。生徒たちはBangladeshの料理文化に興味があるので、特に「ピリアニ」について知りたがっていたので、料理の作り方を教えた。

今回は新しい文化を学ぶことができ、生徒たちとの交流も楽しかった。



料理について説明するリファドゥルさん



ベトナム
Gen Gokk Touさん

春日中学校の二つのクラスにベトナムの文化を紹介した。この前、小学生に紹介した経験があるが、やはり緊張していた。

教室に入ったとき、皆さんが明るく笑顔で迎え、ベトナム語であいさつしてくれた。本当にうれしかった。皆さんがすごく頑張っていたので、私の発表も頑張らなければならないと思った。私の日本語が下手なので、あまりスムーズに発表できなかったが、皆さんが集中して聴いて、ベトナムの文化に興味を持つようになって、すごくうれしかった。

今回、いろいろなことを勉強して、いい経験になりました。ありがとうございます。また機会があれば、もっとベトナムの文化を調べて、紹介しようと思います。



ベトナム語を教えるトゥさん

■実施日：11月25日 ■紹介国：バングラデシュ ■協力校：奈良総合ビジネス専門学校

イスラム・エムディ・リファドゥルさんとアハメド・イモンさんが、バングラデシュの歴史、学校生活、人気のスポーツ、宗教、食べ物、お祭りなど、映像を交えながら紹介してくれました。

大安寺小学校教諭のコメント

今回の奈良市国際交流出前講座では、バングラデシュの留学生の方に実際に来ていただいて、お話を聞かせていただきました。

留学生の方の話はとても分かりやすく、丁寧に子どもたちに質問してくださったり、子どもたちの発言から内容を広げていってくださったり、子どもたちがだんだんと興味関心を高めるような活動にしてくださいました。紹介のスライドには写真や動画が多く、クリケットの試合の動画や国歌の動画、モスクの画像や食べ物の画像などイメージを膨らませながらお話を聞かせていただくことができました。質問タイムでも子どもたちから出た質問に対して優しく、真摯に答えてくださったのでとてもありがたかったです。

子どもたちはバングラデシュについて国名を初めて聞いた子や、国旗や国名、場所まで知っているという子まで様々でしたが、多くの子どもが興味関心をもってお話を聞いていました。最後の挨拶も子どもたちはバングラデシュの言葉で「ありがとうございました」と「さようなら」を留学生の方に伝えていました。このように子どもたちが直接海外の文化に触れる、とても貴重な機会になったと感じます。

今後も子どもたちが外国の文化に触れ、国際理解へ繋がるような活動に取り組んでいくことが大切だと感じます。本当にありがとうございました。

留学生のコメント



バングラデシュ
イスラム・エムディ・リファドゥルさん

大安寺小学校でバングラデシュの文化を教えたとき、生徒たちがとても興味津々、バングラデシュの文化についてたくさん質問をしてくれました。特に、バングラデシュの料理について詳しく聞いたので、料理の作り方も教えた。生徒たちと楽しく交流しながら、新しい文化を学ぶことができ、とても貴重な経験になった。



バングラデシュ
アハメド・イモンさん

大安寺小学校の小学生の前でバングラデシュの料理や伝統的な衣装、芸能などを紹介することは、私にとって大きな誇りでした。小学生たちと過ごした時間は、人生で最も幸せな瞬間の一つでした。それは私の人生のとても良い経験でした。



辛い食べ物について説明するリファドゥルさん



バングラデシュの位置を説明するイモンさん

派遣先

奈良市立富雄北小学校

(6年生 / 96名)

■実施日：12月1日 ■紹介国：中国 ■協力校：奈良大学

奈良大学史学科2回生の趙雨鵬さんが、中国の文化について紹介してくれました。

講座は中国から日本に伝わったものの紹介から始まりました。日本と中国の交流は1400年前から続いており、お茶、筆、ラーメンなど、多くの文物が日中交流の産物として中国から日本にもたらされたことが紹介されました。

歴史の話に続いて、「おはよう」は「ザオシャンハオ」、「こんにちは」は「ニイハオ」などの簡単な中国語のあいさつを学びました。

そして、地域によって様々な料理があることを、たくさんの写真を見せながら説明してくれました。趙雨鵬さんのふるさとして遼寧省の撫順市についても紹介してくれました。撫順市は東北地方にあり、奈良よりもずっと寒いそうです。

趙雨鵬さんは、「中国と日本は長い間交流を続けてきました。これからも仲良くしていきましょう」と講座を締めくくりました。

富雄北小学校教諭のコメント

「みんなが知らない中国」というテーマで、中国について教えていただきました。6年生は歴史を学んでいることもあり、「中国と日本との交流の歴史」では、「知ってる、知ってる。」という表情で聞いていた子どもたちですが、「中国ではお正月に水餃子を食べる」ということを教えていただいたときには、「そうなんや!」「知らなかった!」という声があがりました。

授業後に感想を聞いてみると、「似ている文化や日本でも親しまれているものもありましたが、私がまだ知らない文化もあるのだなと思いました」と、「みんなが知らない中国」に興味を持った様子でした。

留学生のコメント



趙雨鵬さん

今回の出前講座は前回の経験を生かすことができ、余裕を持って臨むことができました。機材の微調整で手間取り、発表のリズムに少し影響しましたが、子供たちは静かに耳を傾けてくれました。Q&Aでは、質問が活発になり、とても楽しい時間を過ごせました。小学校それぞれに特長があることを学びました。お世話いただいた先生方、奈良市観光戦略課の方々に深く感謝いたします。



体育館での講座の様子



講演する趙雨鵬さん

■実施日：12月16日 ■紹介国：マレーシア ■協力校：奈良大学

奈良大学総合社会学科3回生のイエーオ・ハンヤンさんが、マレーシアについて紹介しながら、日本の印象を語ってくれました。

若草中学校教諭のコメント

総合的な学習の時間に、国際理解に関する学習の一環として取り組んでいる本校では、自分たちで世界の国々を調べ、発表する形で、学習を深める取り組みをしてきました。今回、出前講座を申請させていただいた理由は、留学生から自国の文化や歴史などのお話を聴くことで、生徒たちが異文化に興味をもち、そこから新しい疑問や発見が生まれ、国際理解学習にもより深みが増すのではないかと考え、応募させていただきました。

コロナ禍で様々な活動が制限されていたため、留学生からのお話は、生徒にとって新鮮なものとなり印象に残ったようです。特に、教科書に載っている“コロナ”が朝5時から流れる習慣の違いに驚いていました。またマレーシアの文化に触れる機会があまりない生徒たちにとっては、食文化や考え方の違いも知ることができて、いい時間になりました。

感想の中では「マレーシアの国の歴史、文化などを知ること、自分たちの住む日本の良さを改めて知った。」「マレーシアは多民族の国で、使う言語や宗教などもいくつかあって驚いた。」「日本の漫画やアニメもマレーシアで知ってもらってうれしい。」「相手の文化を受け入れることだけでなく、お互いの文化などを大切にすることが大事だと思った。」といった感想を持つ生徒もいて、ハンヤンさんからお話を伺えたことが、他国の文化を理解するだけでなく自分たちの国のことも考えるきっかけとなってよかったです。

どんな質問にも、ハンヤンさんの穏やかな人柄で応えてくださったことに感謝いたします。ありがとうございました。

留学生のコメント



マレーシア
イエーオ・ハンヤンさん

出前講座の準備にあたり、資料作成と発表の難しさに圧倒されてしまいました。当日は、若草中学校が多聞城跡に建てられていることに驚かされたと同時に、学校から見下ろす景色の美しさに感動しました。また、若草中学校の生徒たちからはたくさんの質問を受けました。その活発さにも感動しました。校長先生をはじめ諸先生方、奈良ロータリークラブと奈良市観光戦略課の方々にも深く感謝いたします。ありがとうございました。



講演するハンヤンさん



体育館での講座の様子



質疑応答の様子

派遣先

奈良市立京西中学校

(1年生 / 156名)

■実施日：令和5年1月31日 ■紹介国：バングラデシュ、ミャンマー

■協力校：奈良総合ビジネス専門学校

イスラム・エムデイ・リファドゥルさんがバングラデシュの文化について、チュー・タンダー・トゥンさんがミャンマーの文化について紹介してくれました。

京西中学校教諭のコメント

リファドゥルさんは、言語や通貨、食べ物、そして主な宗教であるイスラム教の行事などを、動画も交えながら説明してくださいました。授業内容と重なる部分もあり、生徒たちもあの時習ったことは、このことだったのかという結びつきがあったようで、より深い学びになったようです。チューさんは、言語や年間行事、また実際の通貨もを見せていただきながら、説明してくださいました。黒板も使いながら、ミャンマー語を教えてください、最後は質問にも答えてくださいました。

本校では、講座の実施前に事前学習を行いました。国際交流講座をすることを伝えると、「中国人?」「韓国人?」と東アジアの国名が出る事が多く、東南アジアや南アジアの国というと驚いたようでした。また、コロナ禍で、ほとんどの講演会がオンラインで行われている状況でしたので、直接来てお話だけできたことは、生徒たちにとって、とても大きな経験となりました。以下に生徒の感想を一部抜粋してお伝えします。

・日本とは違うところがあってとても面白かったです。ミャンマーのことをもっと調べてみたいと思いました。

・とっても楽しかったです。授業が一瞬に感じました。バングラデシュのヨーグルトとか、スイーツを食べてみたいです。いつかバングラデシュに行ってみみたいです。

留学生のコメント



バングラデシュ
イスラム・エムデイ・リファドゥルさん

京西中学校の生徒たちが元気に学習している様子を見て、驚きました。先生たちもとてもフレンドリーで親切でした。また、校内施設も綺麗で、生徒たちが快適に学習することができる環境が整っていました。このような学校にいる生徒たちは、きっと将来活躍ができると思いました。今回はとても貴重な経験になりました。



講演するリファドゥルさん



バングラデシュ
チュー・タンダー・トゥンさん

京西中学校で自分の国の文化を皆さんに紹介しました。最初は緊張しましたが、皆さんが私の説明を真剣に聞いている様子を見たら、落ち着きました。皆さんはとても活発、可愛かったです。またチャンスがあれば、皆さんと会いたいです。



講演するチューさん

■実施日：令和5年1月30日 ■紹介国：スリランカ、ネパール、ミャンマー、中国、モンゴル

■協力校：奈良総合ビジネス専門学校、奈良大学

スリランカ、ネパール、ミャンマー、中国、モンゴルからの留学生たちが、一条高等学校附属中学校が実施するEnglish Dayに参加し、それぞれの国について紹介してくれました。

一条高等学校附属中学校教諭のコメント

本校では外国語科の授業において、実際のコミュニケーションで活用できる英語力の育成を目指しています。その一環として中学1年生を対象としたEnglish Dayを実施し、奈良市国際交流出前講座を通じて8名の留学生の方々にご参加いただきました。

留学生の方々には自国の食事や美しい自然、文化などを紹介していただき、生徒たちは「その食べ物を食べてみたくなった。」「その国に行きたくなった。」と感じたようです。また、外国の中学校の話聞き、日本の中学校との違いに驚いたようでした。

一方、中学生もこれまでに学習した英語を用いて、奈良や本校の魅力を紹介するプレゼンテーションを行いました。留学生の国の情報と比較して説明するなど、聞き手を意識した発表を行えたことは大変良かったです。また、お互いの母語を知らない相手とも、英語によってコミュニケーションが図れると実感できる貴重な機会となりました。



講演するメトゥギさん



講演するブラビンさん



講演するアマヤーさん



講演するディヌカさん



質問に答えるソー・ミン・トゥンさん



講演する盛熙さん

留学生のコメント



ネパール
スレスタ・プラビンさん

自分の国についてプレゼンテーションを行う機会を与えていただき、ありがとうございました。一条中学校の校舎はとても静かな環境で、学校の先生と生徒はとてもフレンドリーでした。生徒たちのプレゼンテーションから、日本の文化、名所、名物料理を教えてもらいました。ゲームしたり、歌ったり、とても面白い、幸せな一日を過ごしました。



中国
盛熙さん

今回の文化交流イベントに参加できて、誠に光栄であり、幸いでした。中国の伝統芸術文化を皆さんと分かち合うことができる機会を与えていただき、ありがとうございました。一条中学校で、かわいい生徒たちに会えて幸せでした。生徒たちのスピーチから奈良の文化と中学生の日常が前より詳しくなりました。とても楽しい経験でした。



ミャンマー
ソー・ミン・トゥンさん

初めて日本の中学校でプレゼンテーションを発表し、恥ずかしくて緊張しました。でも、学校の先生と学生がやさしく、親切だったから、気が楽になりました。最初一回目の発表はとても緊張して、よくできなかったが、二回目はずいぶんできました。他の留学生友達もできて、とても楽しかったです。今回の機会ですべての新しい経験ができ、感謝しています。



スリランカ
ウィルワラ・アラッチガ・アマラー
サンカルピ・ウィルワラ・アラッチさん

学校の生徒や先生に会えたのはとても楽しくてわくわくし、私の人生で忘れられない一日になりました。生徒の前で私の国について話すのはとても楽しかったです。生徒の発表から、奈良のたくさん新しいことを学びました。機会を与えてくれた皆さんに感謝します、日本で最高の一日でした。また会いましょう。



スリランカ
ディスカ・サラंगा・アマラシンヘさん

生徒たちに会えて、とても楽しくて幸せでした。中学生の前で自分の国について話すのは初めてでしたが、素晴らしい経験でした。生徒たちは非常に才能があり、スピーチの準備も万全でした。私も奈良について新しいことを発見することができました。楽しくて最高でした。ありがとうございました。



スリランカ
サヤッカラガ・ムトゥギ・カルハラさん

日本の中学生に私の国のことを紹介するのは素晴らしい経験でした。生徒はスリランカ文化についてすごく興味がありました。私も生徒の発表から、奈良の文化に詳しくなりました。今回は初めての経験だったので、スリランカについて良いアイデアを得たと思います。この機会を与えてくれて感謝します。またよろしくお願いします。



モンゴル
アリウンボルド・アヌージンさん

最初はとても不安でしたが、皆さんがたくさん笑顔を見せてくださり、私の不安は一気に消え去りました。今回、日本の中学生と初めて交流することができ、とってもいい経験になりました。私は中学生の皆さんに「外国語は使うことで上達する。」と伝えたいです。自信がないと諦めずに、イングリッシュを楽しみましょう。皆さんありがとうございました。



中国
魏士超さん

関係者の方々のサポートをいただき、無事、講師を務めることが出来ました。感謝の気持ちで一杯です。また、附属中学校の生徒さんたちの素晴らしい発表にも感動しました。「奈良派」を自認している私は、ますます奈良が大好きになってしまいました。英語を通して、国際的に活躍できる人材が沢山育ってくれるに違いないと確信した次第です。ありがとうございました。



講演するアヌージンさん



講演する魏士超さん



「奈良市国際交流出前講座」で
紹介された国々

① 中国

「麻辣拌 (マーラーパン)」

麻辣拌は、中国東北部の遼寧省撫順市の名物で、その後中国全土へと広がっていきました。その前身は四川麻辣燙 (マーラータン) で、「麻辣燙」は汁ありの料理ですが、「麻辣拌」は汁なしの料理になります。野菜もたっぷり、つみれなどの肉類、干豆腐など中華ならではの食材もあります。炭水化物が欲しい人は麺もあります。

② マレーシア

「カレーパフ」

カレーパフは、半月形のパイ生地で香辛料の効いたカレーを包んで揚げた一品です。サクサクとしたパイ生地とスパイシーなカレーの相乗効果で、カレーライスやカレーパンと同じくらいとても美味しい料理です。そして、中のカレーは温かく、柔らかいジャガイモ、タマネギがたっぷり入っています。パイ皮とカレーの対比は絶妙で、一個だけでは止まらず、何個も食べたくなる一品です。

③ モンゴル

「ツォイワン」

モンゴルの代表的な家庭料理を紹介합니다。肉料理が多いモンゴルでは珍しく野菜もたっぷり入って、味がマイルドな「ツォイワン」いうモンゴル風焼きうどんです。家庭では麺から手作りします。麺の食感はコシがあるというよりは、ボソボソとしています。

また、モンゴルの伝統的なミルクティー「スーテエツァイ」につけて食べたりもします。もし、モンゴル料理のお店に出会ったら、ぜひオーダーしてみてくださいね。

④ ミャンマー

「モヒンガー」

モヒンガーはミャンマーの基本的な料理です。ひよこ豆と魚肉で作ったスープとライスヌードルを一緒に食べることができます。モヒンガーの香りをさらによくするために、ミントやパクチーをトッピングしたり、お好みでえび天や野菜天ぷら、卵をトッピングすると、とても美味しいです！

⑤ ベトナム

「ブンボーフェ (Bún Bò Huế)」

ブンボーフェはベトナム中部のフエ発祥の名物麺料理です。レモンガラスと赤唐辛子の香辛料を炒めて作った調味料サテ (sa tē) とニョクナム (魚醤) で味付けします。赤いスープと、酸っぱくてピリッと辛いのが特徴ですが、そこにさらに赤唐辛子を加えて食べます。麺は稲庭うどんほどの太さで、粳米の粉を捏ねて作ります。

⑥ スリランカ

「ショートイツ (Short Eats)」

ショートイツは、スリランカで人気のおやつです。香ばしくてスパイシー、持ちやすいサイズの焼き菓子や、旅行者の間でも大人気。忙しくて食事ができない時、ちょっとたべたら、満腹になるので、時間を節約するのにも役立ちます。スリランカでおいしい軽食を味わってみてください。素敵な経験になるでしょう。

⑦ ネパール

「ヨマリ (YOMARI)」

ネパールのネワールの伝統的な料理で、米粉の皮でチャク (CHAKU) やクワ (KHUWA) の具材を包んだ蒸し餃子です。チャクはジャガリー、サトウキビから作られ、クワは牛乳で作られます。10月1日には、稲の豊作をお祝いするため、ヨマリ祭りをを行います。二つのヨマリを合わせると、その形はハートになります。

⑧ バングラデシュ

「カッチピリヤニ」

まずマトン (羊肉)、ニンニク、ショウガ、ターメリック、クミン、コリアンダーと少しの油を一緒に混ぜて冷蔵庫に1時間おいておきます。お鍋に油を入れて冷蔵庫の肉を入れ、その上にパシュマティライスを入れて蒸します。出来上がったら、その上にさらにじゃがいもを乗せます。

奈良市国際交流出前講座 (令和4年度)

2023年3月31日発行 奈良市国際交流協会事務局